

各 位

2010年 CEO年頭所感 要旨

2010年1月4日

オリックス株式会社
取締役兼代表執行役会長・グループ CEO
宮内 義彦

【本件に関するお問い合わせ先】

オリックス株式会社
広報部（池田・横井）
電話：03-5419-5102

年頭所感要旨（オリックスグループ CEO 宮内 義彦）

～金融危機下の「守り」から、将来を見据えた「行動」への転換の年～

（置かれた状況）

我々は、既に第一ステップである金融危機への対応を終え、収益力が重視される第二ステップにおいて結果を求められる状況にある。同時に、中長期的な成長戦略の実行が求められる第三ステップについても考えていかなければならない。

（守りから行動への転換期）

依然として、デフレ・円高・消費低迷・雇用不安などの不安要素があり、二番底の恐れもある。従って、経済の大きな流れの中では守りの姿勢はまだ続けていかなければならないが、守りのみということではなく、新規に収益のベースとなる事業を積極的に加えていかなければならない。今年は、守りから将来を見据えた行動への転換の年だと捉えている。

（国内営業の強化）

国内営業部門が構築する全国ネットワークと専門性の高いビジネスを、縦系と横系で織物を織るかのようにマトリクス営業として作り上げていく。そうすることで、グループの国内営業基盤は無限の可能性を發揮することができる。

（積極的な海外展開）

アジア・新興国市場にはこれからも十分成長の余地がある。今後は、今まで以上にアジア、特に中国を中心として広く深くビジネスを行い、戦略的に伸ばしていく。

（新しい分野へのチャレンジ）

今回の金融危機により経済環境は一変したが、その変化は我々にとっては大きなチャンスと捉えられる。世界の中で“ほかにないアンサー”を提供できるユニークな会社にしていく意識を社員一人一人が持って、積極的に新しい分野にチャレンジしてほしい。

以上